

総門

久遠寺の外門である総門は、日蓮聖人が 1274 年身延山付近に入山してから約 400 年後の 1665 年に建立されました。日蓮宗の仏教徒にとって、この門の先は神聖な場所とされています。日蓮聖人が身延山に向かう際に腰を下ろして休むための小岩の前に建てられたものです。

1724 年から 1726 年まで愛知県刈谷城主を務めた三浦明喬の母・三浦寿応院の願いを叶えて建てられたとされる門です。三浦家は三河地方の富豪で有力な一族でした。門の紋章は、中央に横 3 本の線が入った円で、三浦家の家紋です。

この総門の看板は、久遠寺第 36 世住職の日潮上人が設置したものです。三つの漢字は文字通り「開・会・関」と読み、その本質的な意味は "仏になれる" という意味です。門をくぐる人には、法華經の神聖な教えを信じることで、心が開かれ、悟りを開くことができるというメッセージが込められています。